

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

グローバルな視野と起業家精神を兼ね備え、自ら人生を切り拓くとともに、「地域」と「世界」をつないで地域創生に貢献するグローバルリーダーを育成する学校

＜育成する生徒像＞

- (1) 主体的な学びを通して、知識・技能を活用することができる生徒。
- (2) 探究的な姿勢で、新たな創造をすることができる生徒。
- (3) 豊かな人間性にあふれ、多様な人々と協働することができる生徒。
- (4) 個々の夢の実現に向けて、挑戦し続けることができる生徒。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- ・探究活動を通して、課題の発見や解決に至る「見方・考え方」や、課題を解決するために必要な知識、情報収集や分析等に必要な技能を身に付ける。
- ・課題を発見し解決する過程の中で、様々な人々と協働しようとするリーダーシップや、解決に向けて話し合ったりするコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・探究活動を通して、自己の在り方生き方を考え、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

総合的な探究の時間の学習評価

- ・探究の過程で必要となる基本的な知識や技能を習得できているか。
(例) 月などのまとまりごとに収集した情報などをまとめたレポートを提出させる。
- ・探究において、自分の考えを効果的に表現しながら、多くの異なる価値観をもつ人々と協働することができるか。
(例) 授業中の様子を観察する。
- ・探究において、整合性や効果性、焦点化などを意識した質の高い研究ができているか。
(例) 中間報告や最終発表などにおけるプレゼンテーションやレポートを評価する。
- ・探究の過程を通して、課題の発見や解決に向けて自律的に取り組み、社会に参画しようとする態度が見られるか。
(例) フィールドワークや外部訪問などの体験ごとにレポートを提出させる。

生徒の実態

- ・生徒は概ね積極的に学習に取り組み、意欲的である。学習習慣の定着化を図ることが課題である。
- ・生徒の大部分が規律を守り、落ち着いた生活を送っている。グループ学習等の協働的な学びやプレゼン発表等にも積極的に取り組んでいる。
- ・部活動やボランティア活動等には積極的に参加している。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・身体的障害の不利にならないよう、多面的な評価を行う。

目指す生徒の姿

- ・主体的な学びを実践するとともに、自発的な学習習慣が定着している。
- ・授業において、他者の考えを尊重し、自分の考えと照らし合わせて、お互いの考えを統合でき、自分たちで考えた主張を適切に表現し、学びの深化に貢献できる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力）

- 4年次＜未来探究Ⅰ＞
- (1) 研究者や起業家などの体験談などを聞き、探究することの意義や楽しさを学ぶ。
 - (2) ICT 機器による情報収集や整理・分析に必要な基本的なスキルを身に付ける。
 - (3) 基礎的なプレゼンテーションの技法を身に付ける。
 - (4) 情報収集の仕方やディスカッションをする際に必要な意見の分析法などを学ぶ。
 - (5) ペアやグループで協力して話し合い、多様な価値観を認め合うコミュニケーション能力を身に付ける。
 - (6) 自己の在り方生き方を考え、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
- 5年次＜未来探究Ⅱ＞
- (1) 過去の研究などのリサーチに必要な技法や、取材や分析の仕方を学ぶ。
 - (2) 優れたプレゼンテーション例を見て効果的な表現・発表ができるようにする。
 - (3) 研究者や起業家などの体験談などを聞き、探究することの意義や楽しさを学ぶ。
外国語を活用することを通して、異なる文化や言語をもつ多様な人々と協働しようとする態度を養う。
- 6年次＜未来探究Ⅲ＞
- (1) 2年次までに探究した内容について、総合的にまとめることができる。
 - (2) 自らの課題意識と大学での学びを結びつけ学ぼうとする態度を養う。

学習活動、指導方法等

- 4年次＜未来探究Ⅰ＞
- ・前期～グループごとに探究テーマを決定し、研究方法を討議する。
 - ・後期～基本的な知識・技能を習得する。研究成果を発表する。
 - ・起業家や研究者による講演を聞くことで、研究や発明、ビジネスがどのように社会改善へとつながるかについて考える。
- 5年次＜未来探究Ⅱ＞
- ・前期～個人で探究テーマを決定し、研究方法を討議する。
 - ・中間発表を行う。より社会的・高度な探究活動例に触れることで、自分の研究の質を高める。
 - ・後期～中間発表で得た助言をもとに探究テーマを深める。
 - ・海外の生徒との交流等を通して、多様な価値観をもつ人々との協働を体験する。
- 6年次＜未来探究Ⅲ＞
- ・前期～2年間の課題研究を振り返り、これから学びたいことを論文にまとめる。オープンキャンパスに参加するなど、大学研究・学問研究を進める。
 - ・後期～志望大学を決定し、志望理由書を完成させる。また、将来設計レポートを作成する。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- ・未来探究室を設置する。
- ・各学年担当者が中心となり、各探究グループの指導計画を考案する。未来探究室がサポートする。
- ・企業や大学の研究者を招聘して講演や座談会を行う。
- ・近隣大学および業務提携団体と協力して、大学生のティーチングアシスタントを招聘する。
- ・近隣企業、自治体、大学研究室と連携し、助言をもらえる体制を作る。